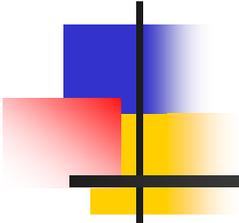


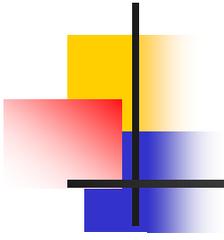
2005年(平成17年)3月期



中間決算説明会

2004年11月16日

石油資源開発株式会社



ご注意事項

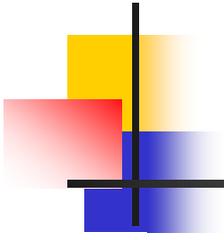
本資料もしくは本日お渡しする資料に含まれているデータのうち、歴史的事実でないものは、現時点における当社の見通しを示したものです。実際の業績は、ここに示された見通しから大きく乖離することがあります。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれる全ての表、チャート、グラフ、図表等に関する著作権は当社が有しています。事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

本資料において 1H, 2H はそれぞれ上期、下期を、(a) は実績数値を、(e) は予想数値を示しています。
また、本文中において ”**revised**” または “**revised estimate**” と記載されている数値は、修正後の予想数値です。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、
石油資源開発株式会社 企画室IRグループ（電話：03-5461-7481）までお願いいたします。



アジェンダ

- ・ **事業の概況**

代表取締役社長 棚橋 祐治

- ・ **新潟県中越地震への対応について**

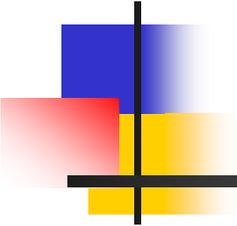
代表取締役社長 棚橋 祐治

- ・ **平成17年3月期 - 中間期 実績**

取締役経理部長 佐藤 弘

- ・ **平成17年3月期 - 通期業績見直し修正**

取締役経理部長 佐藤 弘



事業の概況

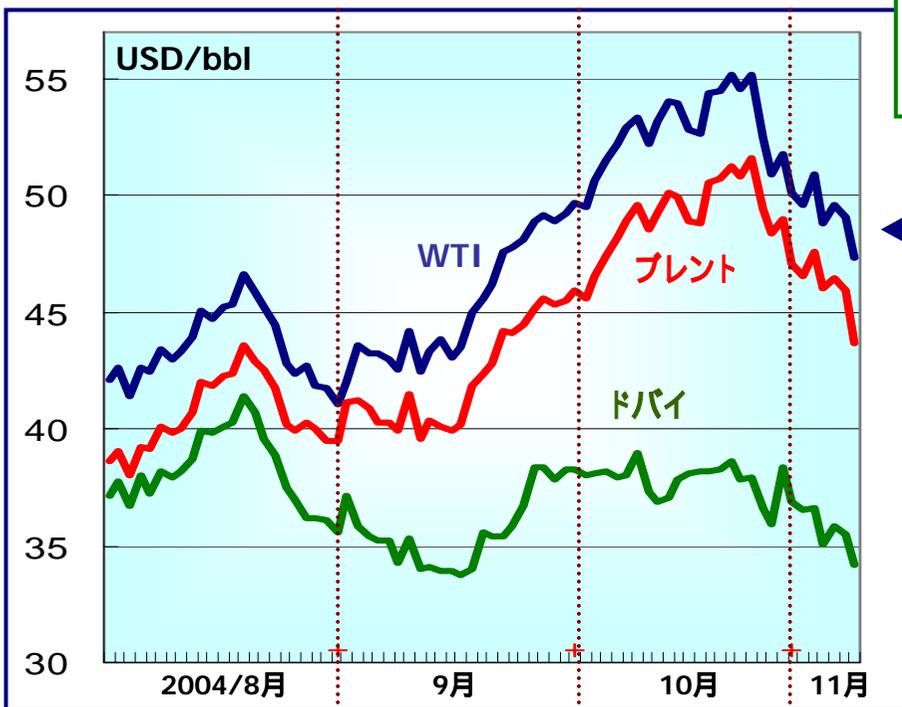
代表取締役社長 棚橋 祐治

事業の概況

原油価格の動き

本邦入着価格 (CIF) の推移 2000年1月～

- ✓ 世界的な需要増加と生産余力低下を背景とした油価高騰。
- ✓ 一部産油国での供給不安や投機的動きも価格上昇に拍車。



代表的油種の価格推移 2004年8月～

- ✓ ガソリンや中間留分の在庫逼迫を背景に WTI など軽質油の上昇幅大きい。
- ✓ 油種間の需給不均衡で スプレッドは急拡大。

WTI は NYMEX、ブレントは IPE の先物 12 月限、ドバイは東京市場スポット価格 (現物、FOB)。上段チャートの CIF 価格は財務省貿易統計。直近 CIF (10 月分 39.70\$/bbl) は上中旬のみの速報値。

事業の概況

通期業績見直し修正 - サマリー

百万円	従来見直し 5月17日	今回 修正見直し		通期	増減
		1H (a)	2H (e)		
売上高	84,163	46,371	53,187	99,558	+15,395
営業利益	9,123	3,139	9,212	12,351	+3,228
経常利益	11,313	7,259	9,211	16,470	+5,157
当期純利益	9,556	5,583	5,460	11,043	+1,487

増益要因



国産原油、国産天然ガス販売 +51 億円



海外事業の利益増加 + 19 億円

減益要因



国内探鉱費、償却費など費用増加 25 億円



税金費用増加、震災関係費など 20 億円

詳細は本資料の24～29ページ参照

事業の概況

国内探鉱の重点地域

基本戦略

既存油ガス田の拡大(フィールドグロース)と、
大規模埋蔵量の発見を目指した探鉱との**効率的組合せ**

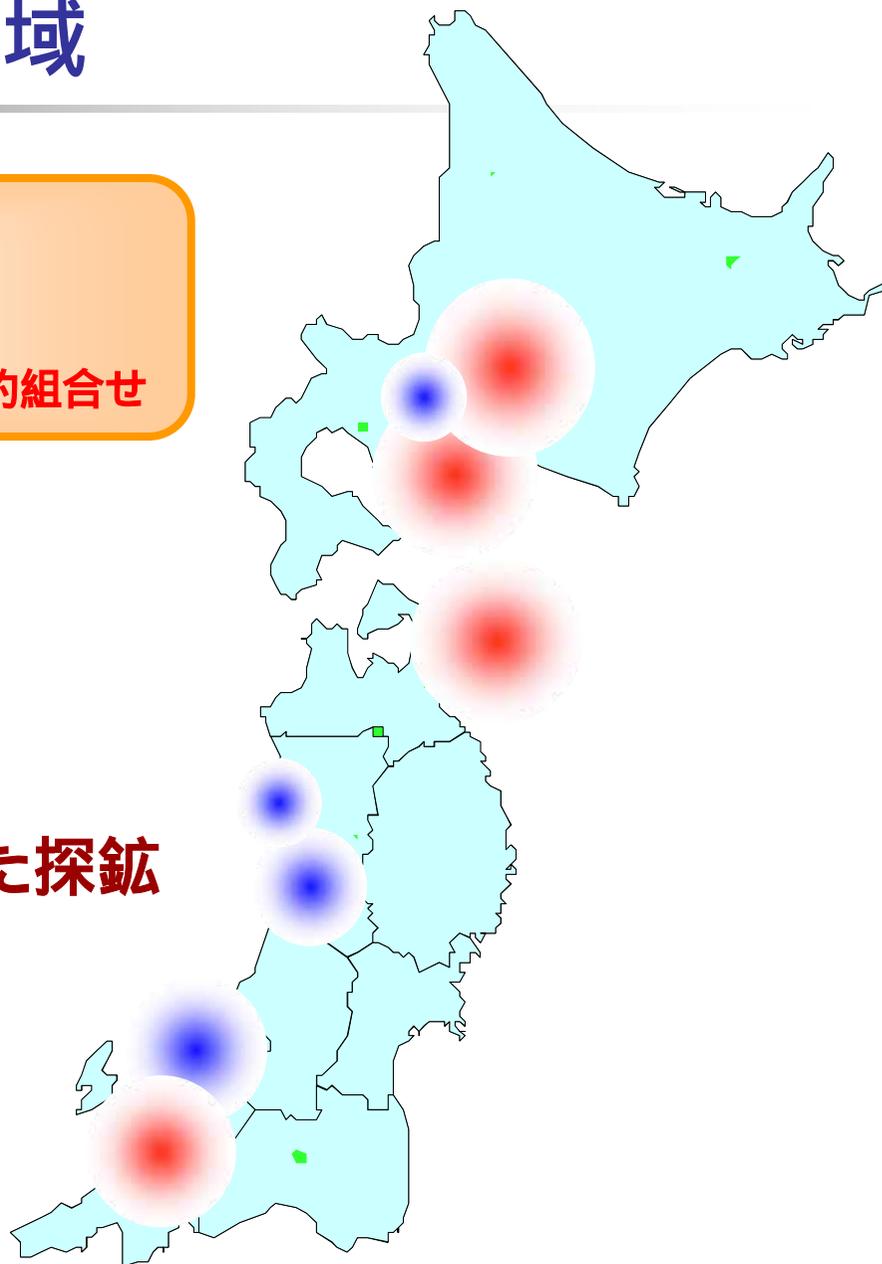
フィールド・グロース

⇒ 勇払浅層、秋田県 由利原周辺、
新潟県 岩船沖・東新潟周辺 など

新規・大規模埋蔵量を志向した探鉱

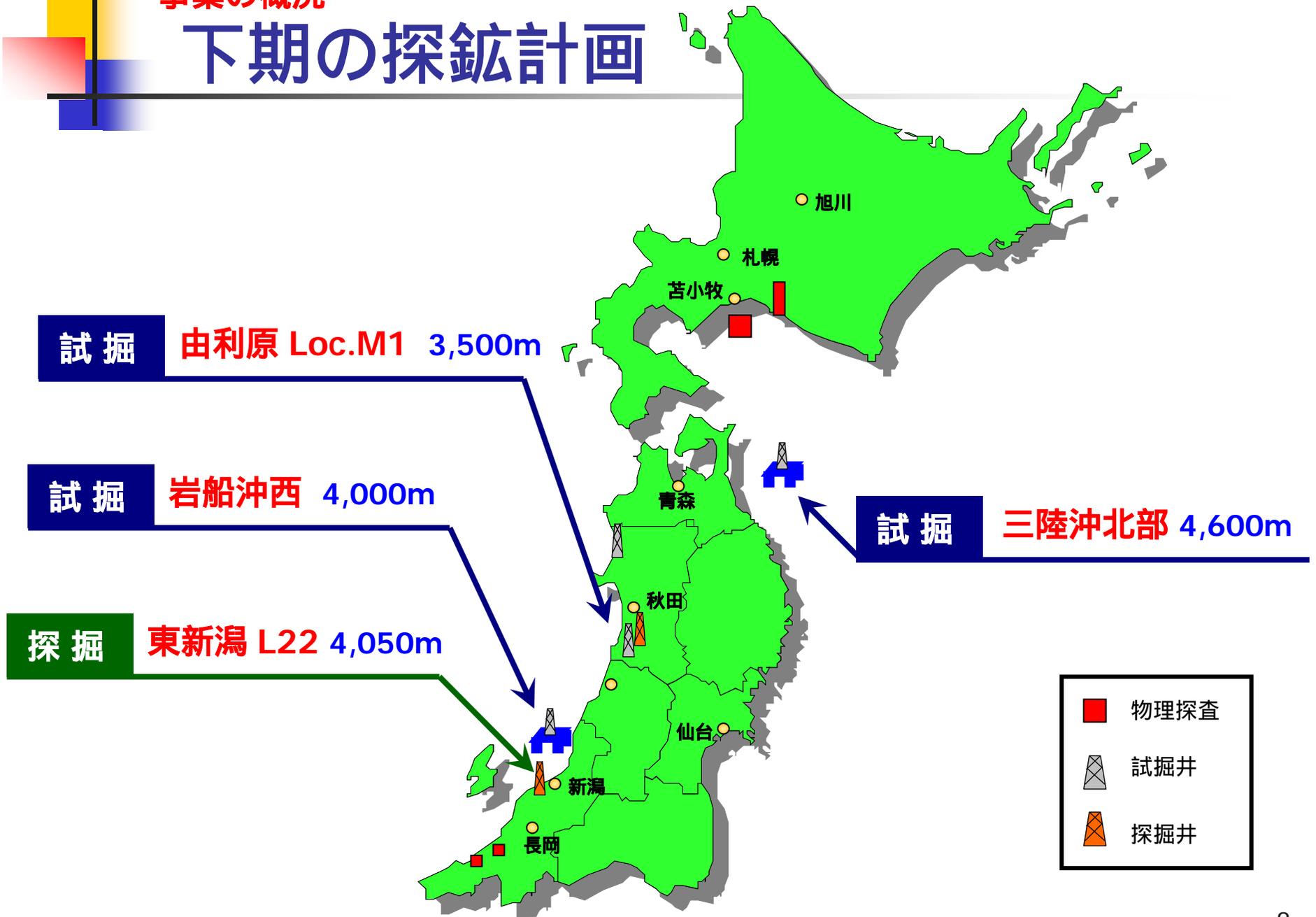
⇒ 北海道 道央・南部陸域
胆振沖、三陸沖 など

⇒ 他社との共同探鉱や、慎重な事前
調査でリスクの低減を目指す。



事業の概況

下期の探鉱計画



事業の概況

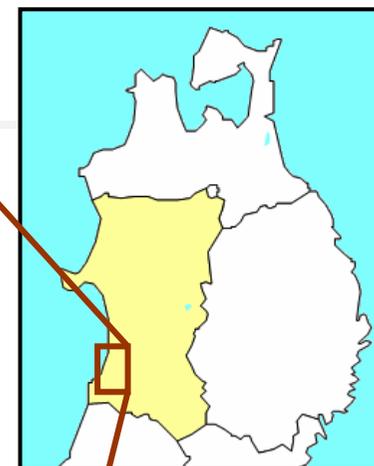
由利原 - 探鉱投資



中鮎川SK-1D (試掘)
03年10月~12月



由利原SK-17DH (探掘)
04年7月~9月



由利原 Loc. M1 (試掘)
05年2月 開坑予定

事業の概況

由利原 - 設備投資

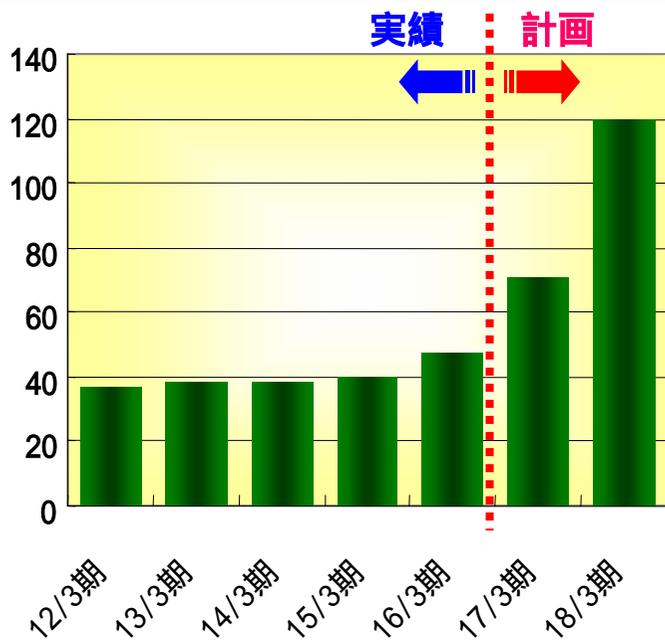
由利原 油ガス田

1984年 生産開始

原油生産能力を 130KL/d
から330KL/d に増強中



▲ 拡張中の原油生産設備
本年12月完成予定



▲ 由利原 年間原油生産量
由利原・鮎川合計、 単位:千KL

事業の概況

郡山パイプラインの着工

宮城県 白石 ~ 福島県 郡山市 (95Km)

設備の概要

口径: 16インチ

輸送能力: 200万m³/d

総工費: 約200億円

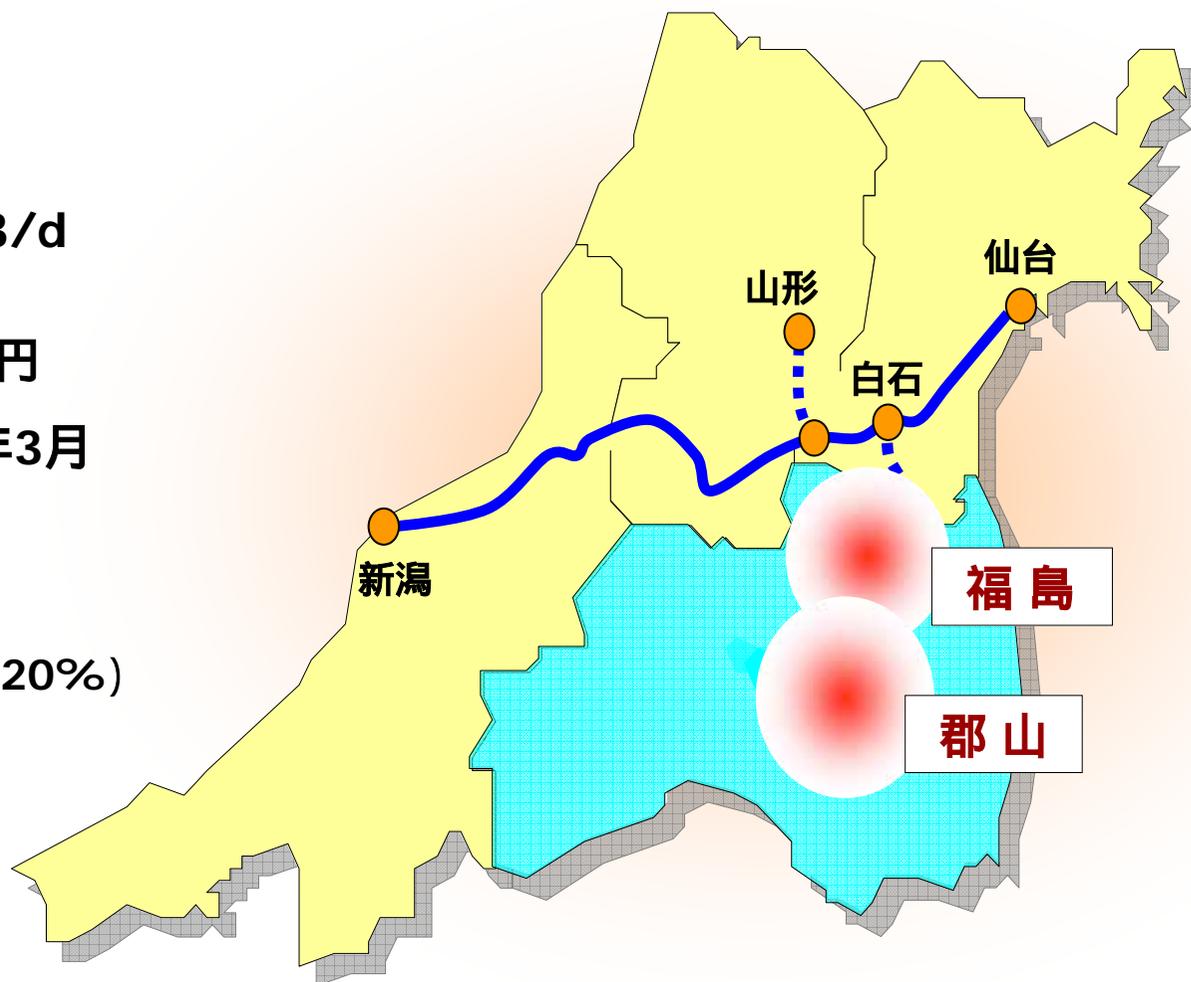
操業開始: 平成19年3月

所有形態

当社(80%)、東北電力(20%)

操業・管理

当社 (ガス導管事業者)



事業の概況

海外事業 - 石油公団保有株式の取得

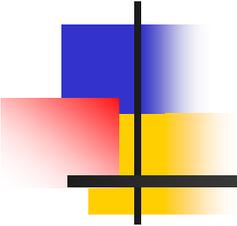
新南海石油開発

中国珠江口沖における原油生産
年間販売量 125万bbl (03年実績)

ジャワ石油

国営石油会社への開発資金貸付け

会社名	株主構成 (取得前)		取得金額	売上高	経常利益	当期純利益
新南海 石油開発 (株)	石油公団	50.00%	23.5億円	'03/12期	1,890	百万円
	当社	32.00%		4,151		897
ジャワ石油 (株)	石油公団	50.00%	32.8億円	'04/3期	431	百万円
	当社	17.50%		1,360		301



新潟県中越地震への対応について

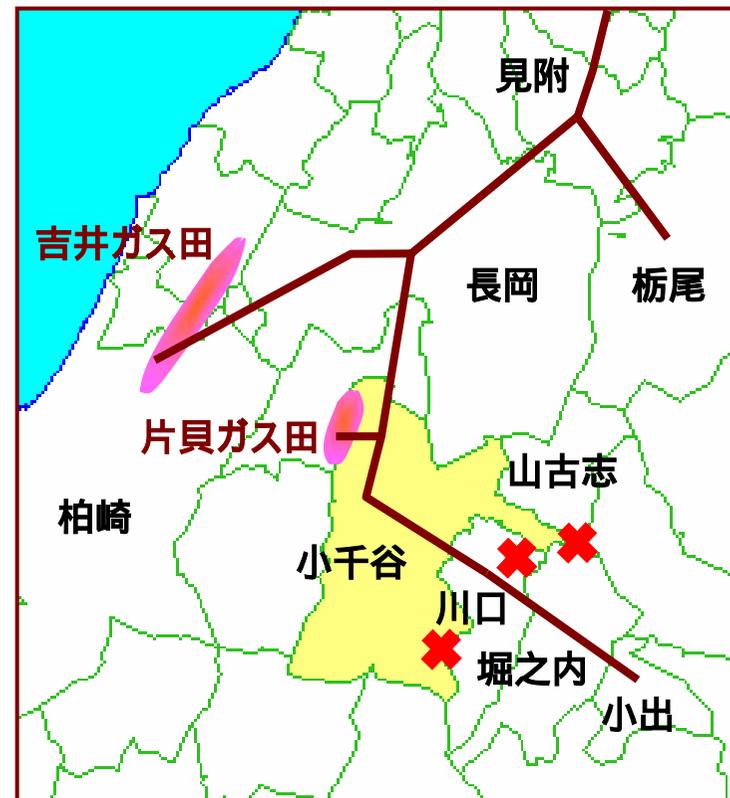
代表取締役社長 棚橋 祐治

中越地震への対応

地震発生と当社の対応

当社の対応

10/23	17:56	地震発生。強い余震が断続的に発生。
	18:00	片貝ガス田の生産を緊急停止。
	19:40	管内の全施設、パイプラインの点検開始。
	23:58	新潟市側から中越へ ガスの逆送開始。
		仙台パイプライン全線で異常なし確認。
10/24	6:05	小千谷～川口ラインのパトロール開始。
	9:45	同上ラインで1ヶ所の損傷を確認。
10/25	8:14	プレスリリース「中越地震の影響について」
10/26	8:20	小千谷～川口ラインの仮復旧工事を完了し、送ガスを再開。
	12:30	被災した市町村に緊急支援物資を輸送。
10/28	-	片貝ガス田施設の詳細検査を実施、安全を確認。
11/ 2	-	片貝ガス田の操業を再開。



✕ 震度7、震度6強の震源地

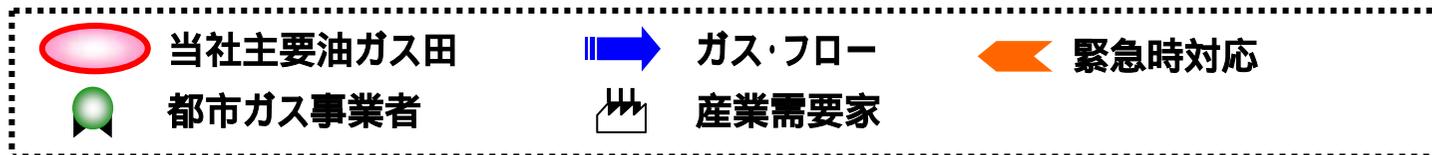
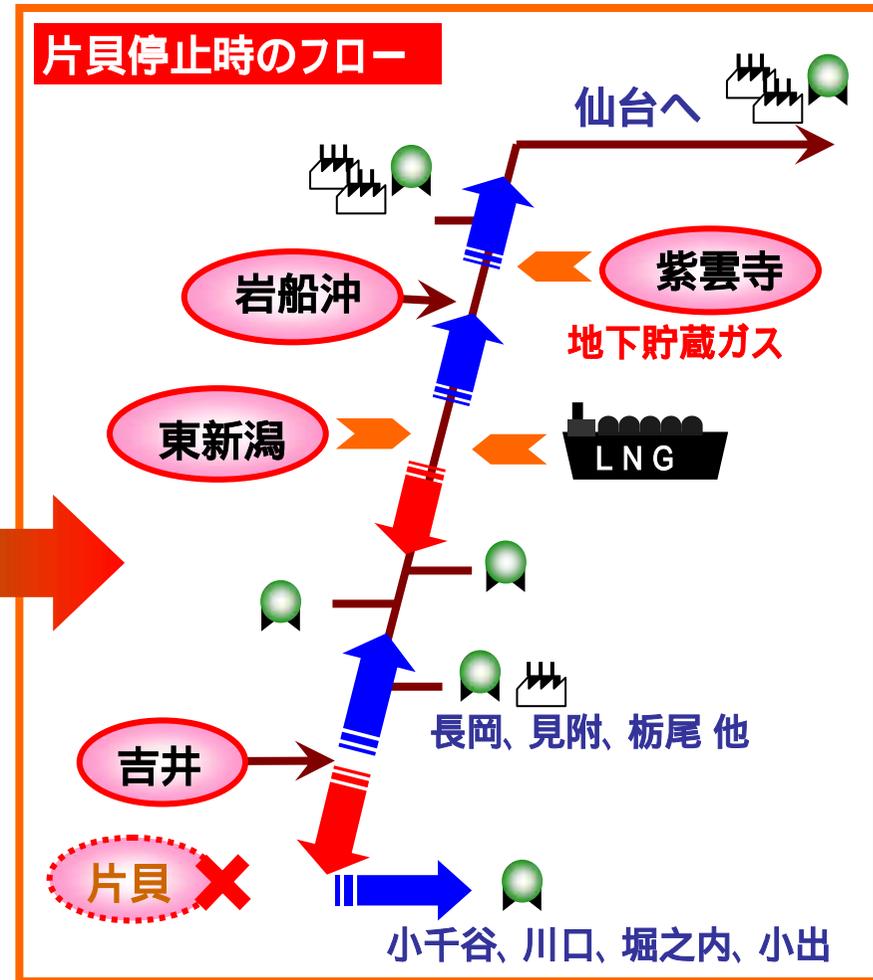
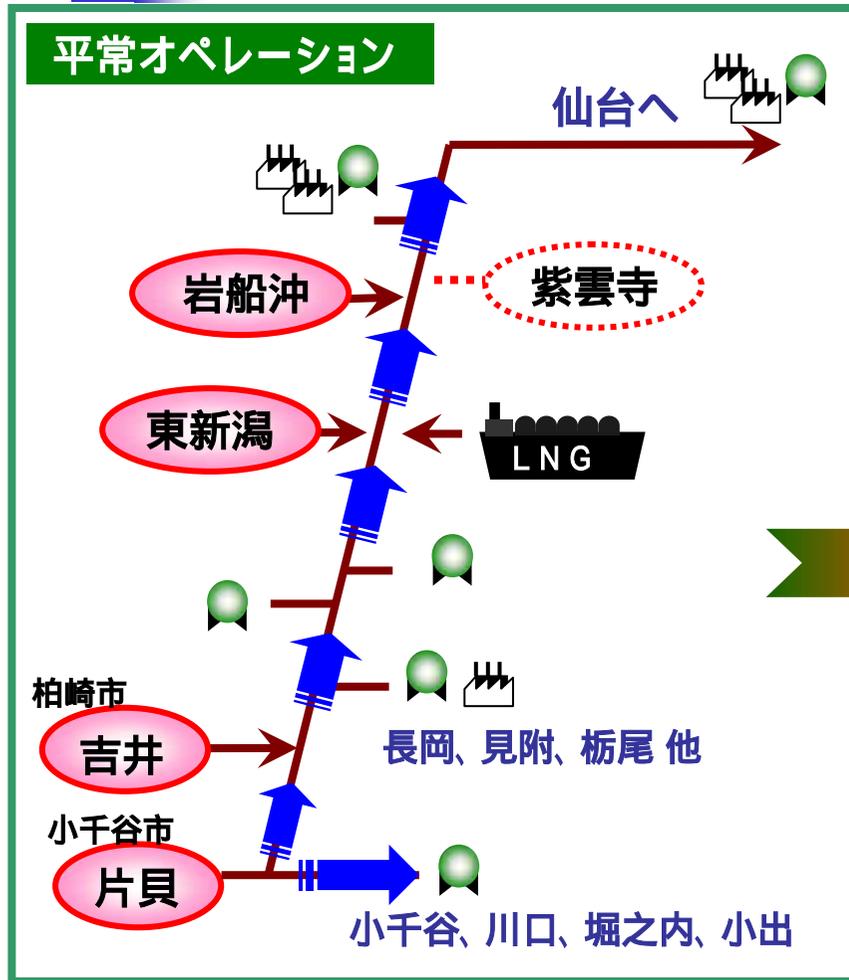
当社 主要油ガス田

天然ガスパイプライン

(堀之内、小出管内は他社ライン)

中越地震への対応

片貝ガス田 操業停止への対応



中越地震への対応

緊急時対応に向けた当社の取り組み

当社の特徴

- ✓ 多様なガスソース (複数の油ガス田、LNG、天然ガス地下貯蔵) による安定供給体制

平時からの対応

- ✓ 集中監視システムによる24時間モニタリングと遠隔制御
- ✓ 漏洩検知、感震、緊急遮断システム等のセキュリティ
- ✓ 全区間における定期的なパイプライン・パトロール
- ✓ 緊急時マニュアルや連絡網の整備、災害訓練の実施



緊急時の対応

- ✓ 緊急操業停止・パイプラインの緊急遮断 / 緊急時に対応した物流の変更
- ✓ 施設の点検と復旧への迅速な対応
- ✓ 販売先、関係官庁、自治体等との緊密な連絡体制維持
- ✓ 従業員や家族の安否確認 / 被災者に対する緊急支援の実施 / 情報の適時開示

中越地震への対応

当社事業への影響

直近の状況

- ✓ 小千谷～川口ラインは10月26日 仮復旧完了、送ガス再開。
- ✓ 片貝ガス田は11月 2日より操業再開。
- ✓ 販売先の都市ガス事業者の受入態勢も 順次復旧中。

業績への影響

- ✓ 天然ガス販売への影響は軽微。 産業向け好調で、下期販売見通しは上方修正。

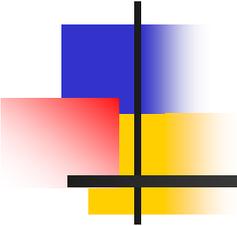
下期販売量

年初計画 688 百万m³

今回修正見通し 729 百万m³

- ✓ 復旧工事、施設の補修・補強等の費用 - 特別損失として 4.7 億円を見込む。
- ✓ 被災地への緊急支援物資、義捐金 - 営業外費用として 0.6 億円を見込む。

ご注意: 当社グループでは、引き続き施設の点検を行っており、今後、施設の補修や補強、除却等に関する追加的な費用が発生する可能性があります。



平成17年3月期 - 中間期 実績

取締役経理部長 佐藤 弘

中間期 実績

中間決算サマリー (当初計画比)

百万円

	16年3月期 中間期実績	17年3月期 中間期			
		当初見通し 5月17日	修正【1】 8月13日	修正【2】 10月29日	確定値 11月15日
売上高	42,352	37,100	43,873	46,300	46,371
経常利益	7,169	2,518	5,571	7,200	7,259
当期純利益	4,762	3,055	4,865	5,500	5,583


国産原油・国産ガス +14 億円
 原油想定 28\$/bbl 35\$/bbl


探鉱費用の減少 4 億円
 作業の一部を下期に繰り越し


国産原油・国産ガス +5 億円
 原油、ガスとも販売数量増加


海外事業の利益増加 +15 億円


償却費増、資産の除却 9 億円


税金費用の増加 5 億円

 増益要因

 減益要因

中間期 実績

中間決算サマリー (前年同期比)

百万円	16/3期 1H (a)	17/3期 1H (a)	増減
売上高	42,352	46,371	+4,018
売上総利益	16,609	16,086	523
探鉱費	1,387	2,826	+1,439
販管費	9,543	10,120	+576
営業利益	5,679	3,139	2,539
営業外損益	1,490	4,119	+2,628
国内(持分益)	191	500	+691
海外(既存) *1	592	1,762	+1,169
海外(新規) *2	68	53	+15
その他	1,156	1,909	+752
経常利益	7,169	7,259	+89
当期純利益	4,762	5,583	+821

国産ガス販売 9 億円
託送収入 + 16 億円

探鉱費増加 14 億円
償却費増加 16 億円
(生産部門)

関連会社の固定資産譲渡益

海外プロジェクト会社の持分益増加、
財務状況改善による引当金取崩し

税金費用の減少 + 11 億円

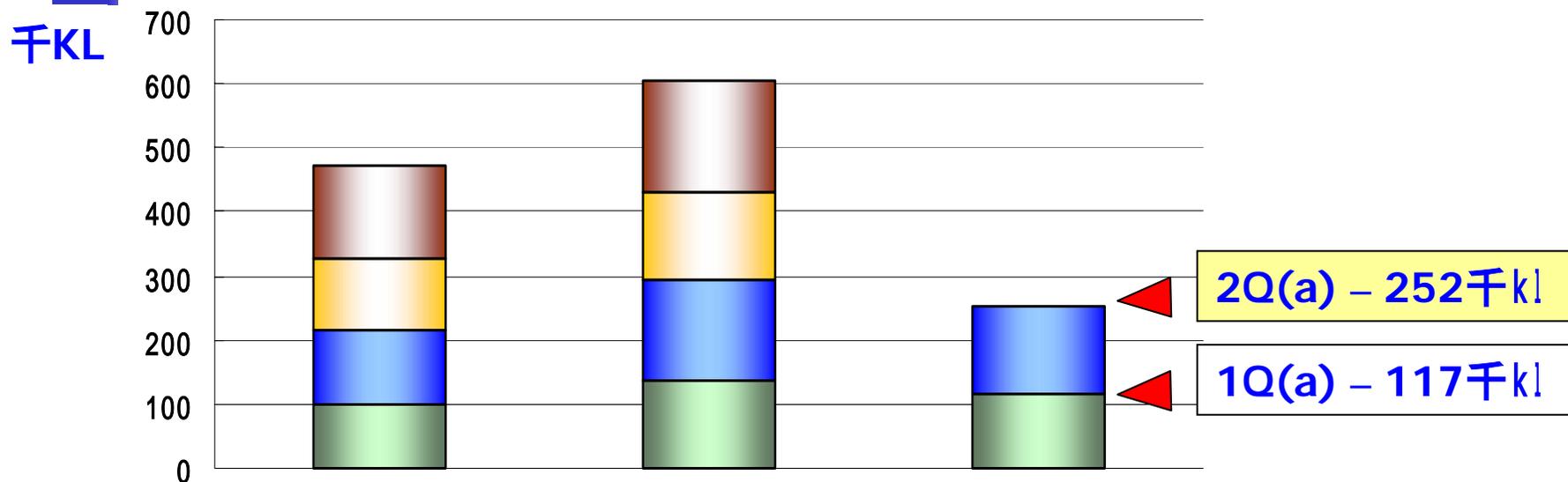
*1 海外既存プロジェクトの持分損益と引当金調整額の計。ただし連結子会社を除く。

*2 海外プロジェクト会社への新規出資に伴う引当金の繰入額。

変動要因の説明は、増益要因を + で、
減益要因を - で記載。

中間期 実績

国産原油販売

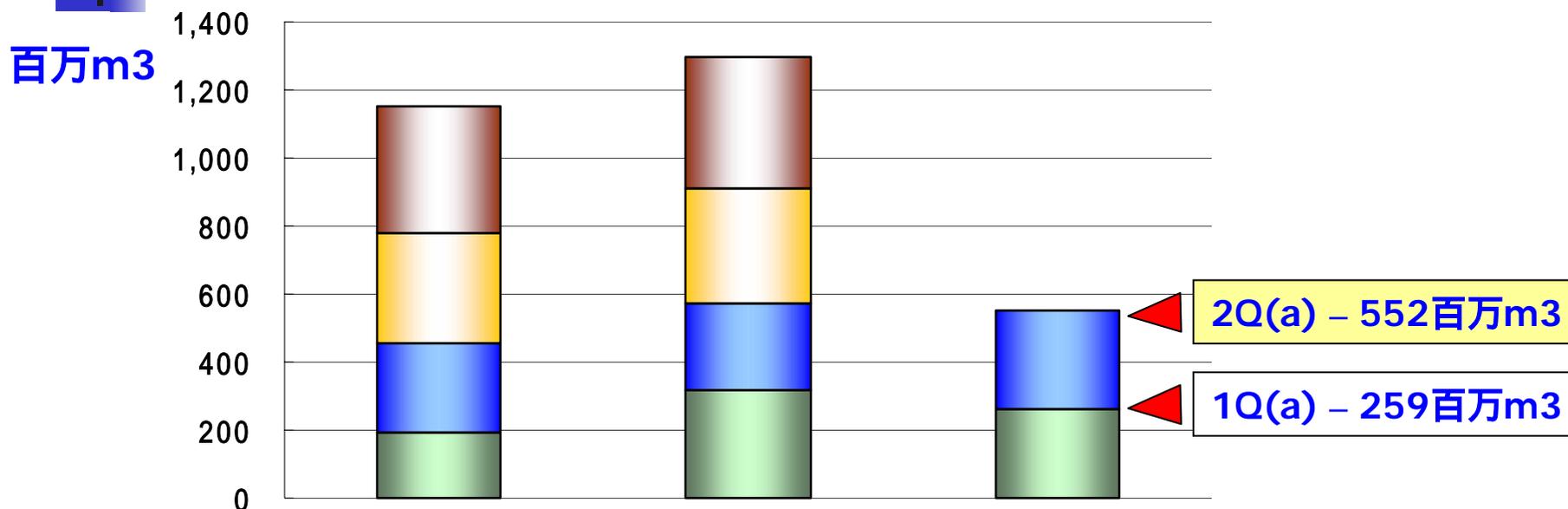


	15年 3月期	16年3月期		17年3月期		増減 1H (a)
		1H (a)	通期 (a)	1H (a)	通期 (e)	
販売数量(千KL)	472	293	606	252	577	41
単価(Yen/KL)	@21,680	@21,016	@21,071	@25,679	@25,840	+ 4,663
油価(\$/bbl)	26.50	28.67	29.37	35.24	36.75	+6.57
為替(Yen/\$)	122.86	118.62	113.71	109.34	109.73	9.28
売上高(百万円)	10,237	6,169	12,784	6,475	14,933	+ 306

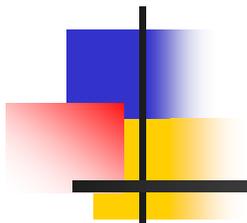
注：本資料における「国産原油」「国産天然ガス」の販売量及び売上高は、連結子会社(日本海洋石油資源開発(株))からの仕入販売分を含む、当社単体決算の数値を記載。

中間期 実績

天然ガス販売



	15年 3月期	16年3月期		17年3月期		増減 1H (a)
		1H (a)	通期 (a)	1H (a)	通期 (e)	
販売量 (百万m ³)	1,154	571	1,296	552	1,281	18
売上高 (百万円)	41,479	18,750	42,560	16,568	39,955	2,182
平均単価 (円/m ³)	@35.92	@32.81	@32.83	@29.97	@31.19	2.84
当社国産ガス 販売量	976	442	1,024	457	1,051	+ 15
〃 売上高	35,218	14,578	33,813	13,647	32,532	931



17年3月期 – 通期業績見通し修正

取締役経理部長 佐藤 弘

通期見通し修正 【従来予想比】

通期見通し修正 - サマリー

百万円	従来 見通し	修正見通し			増減
		1H (a)	2H (e)	通期	
売上高	84,163	46,371	53,187	99,558	+15,395
売上総利益	36,096	16,086	24,651	40,737	+4,641
探鉱費	6,231	2,826	3,982	6,808	+577
販管費	20,742	10,120	11,458	21,578	+836
営業利益	9,123	3,139	9,212	12,351	+3,228
営業外損益	2,190	4,119	0	4,119	+1,929
国内(持分益)	682	500	31	531	151
海外(既存) ^{*1}	480	1,762	67	1,829	+1,349
海外(新規) ^{*2}	657	53	519	572	+85
その他	1,685	1,909	422	2,331	+646
経常利益	11,313	7,259	9,211	16,470	+5,157
当期純利益	9,556	5,583	5,460	11,043	+1,487

*1 海外既存プロジェクトの持分損益と引当金調整額の計。ただし連結子会社を除く。

*2 海外プロジェクト会社への新規出資に伴う引当金の繰入額。

修正のポイント

国産原油・国産ガス



51 億円

資料25～26ページ

海外事業の利益増加



19 億円

資料27～28ページ

償却費等、コスト増加



45 億円

資料 29 ページ

通期見通し修正 【従来予想比】

通期見通し修正 - 国産原油

国産原油

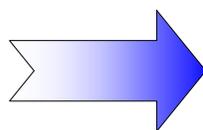
	従来 見通し	今回 修正見通し			増減
		1H (a)	2H (e)	通期	
販売数量(千KL)	597	252	325	577	19
単価(Yen/KL)	@19,347	@25,679	@25,965	@25,840	+ 6,493
油価(\$/bbl)	28.00	35.24	38.00	36.75	+ 8.75
為替(Yen/\$)	105.00	109.34	110.00	109.73	+ 4.73
売上高(百万円)	11,558	6,475	8,457	14,933	+ 3,375

➤ 販売数量は年初計画比で 若干の減少。

➤ 原油価格想定

従来見通し

28\$/bbl



1H (a) 35.24 \$/bbl

3Q (e) 39.00 \$/bbl

4Q (e) 37.00 \$/bbl

➤ 為替のインパクトは限定的。

通期見通し修正 【従来予想比】

通期見通し修正 - 天然ガス

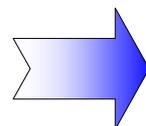
天然ガス

	従来 見通し	今回 修正見通し		通期	増減
		1H (a)	2H (e)		
販売量 (百万m3)	1,206	552	729	1,281	+ 75
売上高 (百万円)	37,886	16,568	23,387	39,955	+2,069
平均単価 (円/m3)	@31.42	@29.97	@32.10	@31.19	0.23
当社国産ガス 販売量	985	457	594	1,051	+ 66
〃 売上高	30,765	13,647	18,885	32,532	+ 1,766

▶ 震災の影響は限定的。産業向け好調で販売量見通しを上方修正。

年初計画

1H 518 百万m3
2H 688 百万m3



今回 修正見通し

1H (a) 552 百万m3
2H (e) 729 百万m3

通期見直し修正 【従来予想比】

海外事業 - 連結子会社

百万円

連結	16/3期 通期 (a)	17/3期 年初予想			17/3期 今回修正予想		
		1H (e)	2H (e)	通期	1H (a)	2H (e)	通期
純利益当社持分 *1	221	203	592	795	249	1,211	1,460
引当金調整額 *2	221	203	107	310	419	-	419
連結調整勘定償却	-	-	8	8	-	45	45
計	-	-	493	493	668	1,256	1,924

*1 連結子会社の当期純利益から少数株主持分を控除した当社持分。

*2 連結子会社に対する事業損失引当金の計上/戻入額。

+ 14.3 億円

- ✓ 米国子会社 Japex (US) Corp. 財務状況改善で引当金取り崩し。
- ✓ 新南海石油開発(株) ジャワ石油(株)も下期より連結化でPLに寄与。
- ✓ 通期連結寄与 (e) - 引当金調整額、連調償却額を含む。

Japex US 8.0 億円 新南海石油開発(下期) 9.7 億円 ジャワ石油(下期) 1.5 億円

通期見直し修正 【従来予想比】

海外事業 - 関連会社等

百万円

非連結	16/3期 通期 (a)	17/3期 年初予想			17/3期 今回修正予想		
		1H (e)	2H (e)	通期	1H (a)	2H (e)	通期
持分損益	2,174	132	117	249	496	46	542
海投損調整額 *1	2,911	198	428	230	1,266	21	1,287
その他引当調整 *2	-	858	-	858	-	-	-
計	737	792	545	1,337	1,762	67	1,829

*1 営業外損益の計上額。ただし新規出資に伴う海外投資等損失引当金の繰入額を除く。

*2 新南海石油開発(株)の引当金調整額 (年初予想では特別損益を想定、中間期実績では営業外収益で計上)

+ 4.9 億円

- ✓ 財務状況改善で、海投損の取崩し進む。
- ✓ 通期連結寄与 (e) - 引当金調整額を含む。

新南海石油開発(上期) 9.6 億円

ユニバーサガスアンドオイル 5.4 億円

ジャワ石油(上期) 0.9 億円

Japex Gulf Producing 4.5 億円など

通期見直し修正 【従来予想比】

通期見直し修正 - その他のポイント

探鉱費用の増加

- ✓ 由利原 Loc. M1 試掘追加による探鉱費用の増加 - 5.8 億円

坑井の償却費等増加

- ✓ 償却方法変更による坑井償却費の増加 (売上原価) - 9.7 億円
 - ✓ 坑井仕上げ費用を研究開発費で計上 (一般管理費) - 5.0 億円
 - ✓ 不稼動坑井の除却 (特別損失) - 4.8 億円
- 19.5 億円

その他の費用増加

- ✓ 苫小牧ガス向けパイプラインの特別償却 (販売費) - 2.8 億円
 - ✓ 震災関係費 (特別損失 4.7億円、営業外 0.6億円) - 5.3 億円
 - ✓ 税金費用、少数株主利益の増加 - 12.0 億円
- 20.1 億円
- (27ページ記載の海外連結子会社分を除く)

通期見直し修正 【前年実績比】

前年通期(a) vs. 今期見直し (revised)

百万円	16/3期 (a)	17/3期 (revised)	増減
売上高	96,713	99,558	+2,845
売上総利益	38,653	40,737	+2,084
探鉱費	5,213	6,808	+1,595
販管費	20,990	21,578	+588
営業利益	12,449	12,351	98
営業外損益	2,018	4,119	+2,101
国内(持分益)	101	531	+430
海外(既存) *1	737	1,829	+1,092
海外(新規) *2	205	572	367
その他	1,384	2,331	+947
経常利益	14,468	16,470	+2,002
当期純利益	9,960	11,043	+1,083

国産原油販売 + 21 億円

国産ガス販売 13 億円

託送収入 + 24 億円

探鉱費増加 16 億円

償却費増加 30 億円

(生産部門)

海外 新規連結寄与 +21 億円

関連会社の固定資産譲渡益

海外プロジェクト会社の持分益増加、
財務状況改善による引当金取崩し

固定資産除却、震災対策費など、
特別損失の増加 8 億円

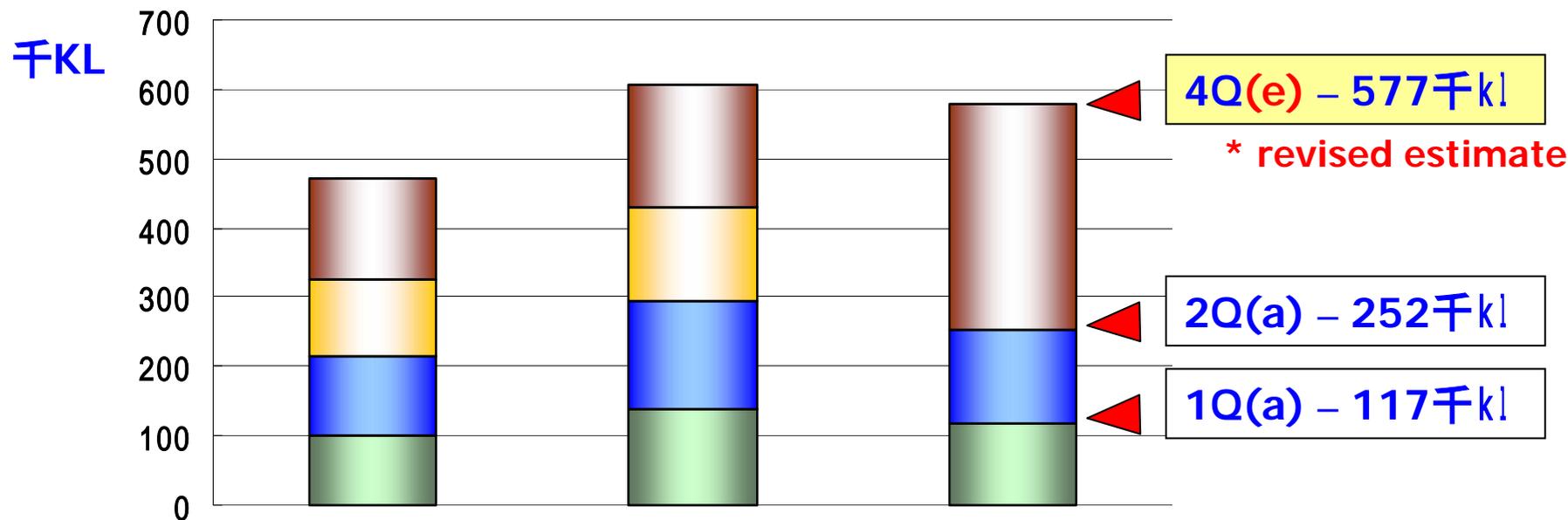
*1 海外既存プロジェクトの持分損益と引当金調整額の計。ただし連結子会社を除く。

*2 海外プロジェクト会社への新規出資に伴う引当金の繰入額。

変動要因の説明は、増益要因を+で、
減益要因を-で記載。

通期見直し修正 【前年実績比】

国産原油販売 – 前年比

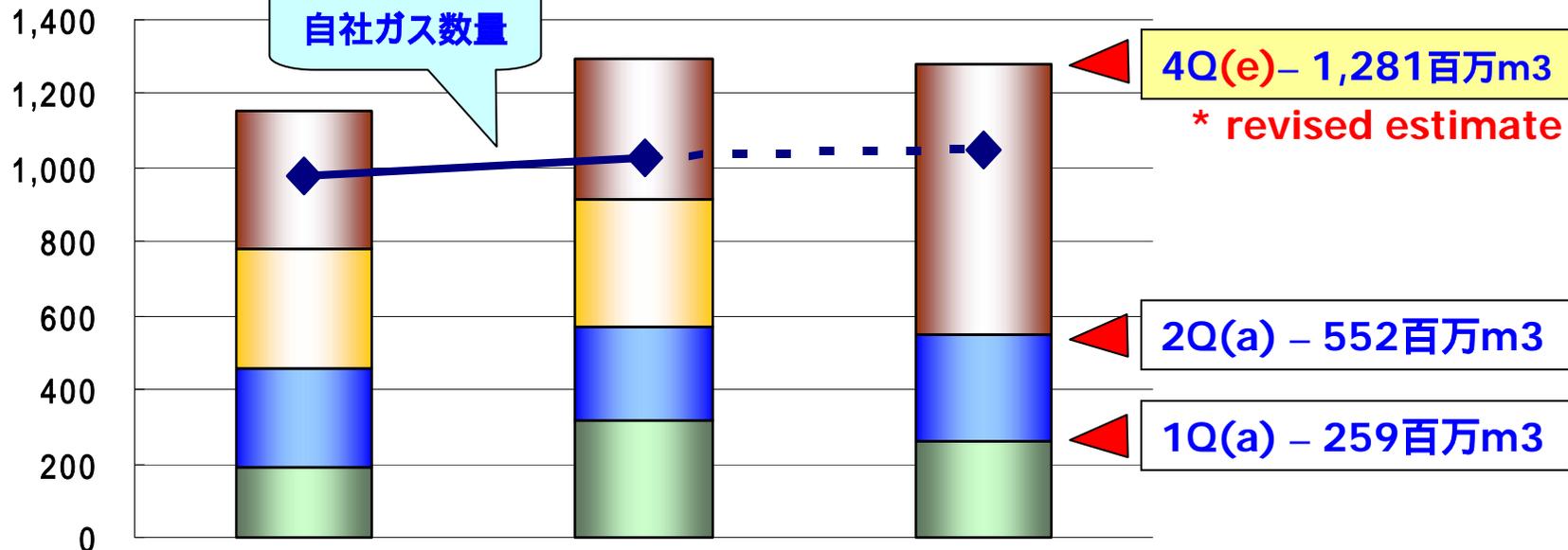


	15年 3月期	16年3月期		17年3月期		増減 通期 (e)
		1H (a)	通期 (a)	1H (a)	通期 (e)	
販売数量(千KL)	472	293	606	252	577	28
単価(Yen/KL)	@21,680	@21,016	@21,071	@25,679	@25,840	+ 4,769
油価(\$/bbl)	26.50	28.67	29.37	35.24	36.75	+ 7.38
為替(Yen/\$)	122.86	118.62	113.71	109.34	109.73	3.98
売上高(百万円)	10,237	6,169	12,784	6,475	14,933	+ 2,149

通期見直し修正 【前年実績比】

天然ガス販売 – 前年比

百万m3



	15年 3月期	16年3月期		17年3月期		増減 通期 (e)
		1H (a)	通期 (a)	1H (a)	通期 (e)	
販売量 (百万m3)	1,154	571	1,296	552	1,281	15
売上高 (百万円)	41,479	18,750	42,560	16,568	39,955	2,605
平均単価 (円/m3)	@35.92	@32.81	@32.83	@29.97	@31.19	1.64
当社国産ガス 販売量	976	442	1,024	457	1,051	+ 27
〃 売上高	35,218	14,578	33,813	13,647	32,532	1,280